

住宅トラブルを予防し、住まいで悩む人の救済をめざす情報誌

ハウズドクター通信

No. 7

平成19年7月

危険がいっぱいの現代住宅

住宅内事故による死亡者は一万人以上、けが人は百万人以上

交通事故より多い住宅内事故

みなさんも、階段を踏みはずしたり、家で転んだことがあると思います。お年寄りがつまらずいて転び、骨折した話や、子どもがドアに手を挟んだ話など、安全だと思っている住宅が、実は危険でいっぱいなのです。住宅内事故による死亡者数は、交通事故による死亡者とほぼ同じで、毎年一万人以上でています。けが人は百万人を超え、交通事故の負傷者を越えています。

階段での転倒事故がトップ

住宅内事故は高齢者に多いのですが、その半数は階段での事故です。あるお宅に調査・診断に伺ったときのことです。その家の階段には手すりがありませんでした。しかも、踊り場のない一直線の急勾配の階段です。その危険性についてお話ししてみたのですが、「慣れているから大丈夫、落ちた人はいないから」という返事でした。この階段の解決法は実に簡単です。どちらかの壁に手すりを付けるだけで済みます。とても安くて済む、安心料だと思うのですが・・・。

浴室での転倒も多い

次に多い事故は浴室内の事故です。幼児の溺死がもっとも多く、やけどが続きます。その次が、すべて転倒する事故です。ちょっとした転倒でも、狭いうえに突起物が多く、大ケガをすることがあります。すべらない工夫も簡単にできます。ここでも最も効果的なことは手すりの設置です。

段差がお年寄りを苦しめる

住宅は段差だらけです。玄関・和室・トイレ・浴室・勝手口などには段差がつきものです。実はこれが一番の問題です。お年寄りに限らずつまづく事故がたいへん多いのです。特にお年寄りにとって最大の恐怖は転倒です。段差につまらずいて転び、けがをしたり骨折する例が多いのです。それがもとで寝たきりになってしまう人もいます。段差の解消は、新築時はもちろん、リフォームでもとても簡単にできることなのです。